

PAT-NO: JP361193027A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 61193027 A
TITLE: NUTRITION SCALE
PUBN-DATE: August 27, 1986

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
ENDO, TAKAYOSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME
TOKYO ELECTRIC CO LTD
COUNTRY
N/A

APPL-NO: JP60033716
APPL-DATE: February 22, 1985

INT-CL (IPC): G01G019/40

US-CL-CURRENT: 177/25.16

ABSTRACT:

PURPOSE: To improve the availability of a nutrition scale by providing a memory stored with the amount of energy and the amount of nutritive elements of each food of specific weight and calculating and displaying the amount of energy and the amount of nutritive elements for the measured weight of specific foods at a scale part.

CONSTITUTION: A main scale body 2 has the scale part 4 at its upper part and an operation surface 5 as one slanting flank. A weight display part 6, specific data input keys 7, and a ten-key 8 are arranged on the operation surface 5 respectively. The main scale body 2 includes the memory stored with the amount of energy and the amount of nutritive elements for each food of specific weight, arithmetic circuit which calculates the amount of energy and the amount of nutritive elements for the measured weight of specific foods at the scale part 4, etc. The display part 3, on the other hand, has a display part 18 which displays information, etc., inputted with specific data input key 7 and displays the amount of nutrition by adding the amount of nutritive elements to the amount of energy to display the effective amount of nutrition, thereby improving the availability of the nutrition scale.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio

⑪ 特許出願公開

昭61-193027

⑤ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

④公開 昭和61年(1986)8月27日

G 01 G 19/40

7023-2F

審査請求 未請求 発明の数 1 (全 5 頁)

⑤発明の名称 栄養スケール

②特 願 昭60-33716

②出 願 昭60(1985)2月22日

⑦発 明 者 遠 藤 高 義 三島市南町 6 番 78 号 東京電気株式会社三島工場内

⑦出願人 東京電気株式会社 東京都目黒区中目黒2丁目6番13号

⑦代理人 弁理士 柏木 明

明 細 書

1. 発明の名称

栄養スケール

2. 特許請求の範囲

1. 秤部と、各食料品の所定重量におけるエネルギー量及び栄養素量を記憶するメモリーとを設け、前記秤部における所定の食料品の計量重量に対するエネルギー量及び栄養素量を演算する演算回路を設け、演算されたエネルギー量及び栄養素量を表示する表示部を設けたことを特徴とする栄養スケール。

2. 各人の年令、身長及び活動量に応じたエネルギー量及び栄養素量を演算し、理想値に対するそれぞれの過不足を表示するようにした特許請求の範囲第1項記載の栄養スケール。

3. エネルギー量又は栄養素量が理想値より過剰である場合には、過剰分を消費するための運動量を表示するようにした特許請求の範囲第2項記載の栄養スケール。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、食料品の重量を計量してそのエネルギー量等を演算、表示する栄養スケールに関する。

従来技術

従来、所定の食料品の重量のみならず、そのエネルギー量をも表示する栄養スケールと称するものが存する。このようなものは、各食料品の所定重量におけるエネルギー量を記憶するメモリーを有し、所定の食料品の計量重量に対するエネルギー量を演算して表示するものである。

発明が解決しようとする問題点

しかして、栄養スケールの使用目的は、理想的な摂取栄養量に対して実際に摂取する栄養量がどの程度であるかを知り、その過不足を認識して実際の摂取栄養量を理想値に近づけることにある。

一方、栄養量はエネルギー量のみならず、蛋白質や脂肪等の量、すなわち栄養素量をも含んだ広い概念でとらえるべきである。しかしながら、従来の栄養スケールではエネルギー量のみしか表示されず、その使用目的を有効に達成することができないという欠点を有する。

本発明は、このような点に鑑みなされたもので、各食料品の所定重量におけるエネルギー量及び栄養量を表示し、栄養スケールの有用性を高めることを目的とする。

問題点を解決するための手段

本発明は、秤部と、各食料品の所定重量におけるエネルギー量及び栄養量を記憶するメモリーとを設け、秤部における所定の食料品の計量重量に対するエネルギー量及び栄養量を演算する演算回路を設け、演算されたエネルギー量及び栄養量を表示する表示部を設けた。

作用

しかして、秤部において特定の食料品を計量すると、メモリーに記憶された情報に基づき、当該食料品の計量重量値に対するエネルギー量及び栄養量が演算され、表示部にそれらの値が表示される。

ここに、エネルギー量に栄養量が加味されて栄養量が表示されることにより実効ある栄養量の表示がなされ、栄養スケールの有用性が高まる。

キャンセル用の×キー１７とよりなる。

一方、前記ＣＲＴ表示器３は、前記特定データ入力キー７で入力された情報等を表示する表示部１８を有する。

更に、前記秤本体２内には、各食料品の所定重量におけるエネルギー量及び栄養量を記憶するメモリーと、前記秤部４における所定の食料品の計量重量に対するエネルギー量及び栄養量を演算する演算回路等が図示はしないが内蔵されている。

このような構成において、特定データ入力キー７内の性別入力キー１０等により、計量する食料品を摂取する人のデータを入力する。この入力は、性別、年代、身長及び活動量の４項目に渡って行なう。すると、表示部１８には、

- ① 当該データ
- ② その人が１日に必要とする理想的なエネルギー量及び栄養量

が表示される。次に、材料入力キー９と数字キー１４とで計量する食料品のデータ、すなわちその

発明の実施例

本発明の一実施例を第１図ないし第５図に基づいて説明する。第１図に栄養スケール１の全体図を示す。栄養スケール１は、秤本体２とこの秤本体２に接続されるＣＲＴ表示器３とよりなる。

前記秤本体２は、上部に秤部４を有し、傾斜した一側面に操作面５を有する。第２図にこの操作面５の詳細を示す。すなわち、前記操作面５には重量表示部６、特定データ入力キー７及びテンキー８がそれぞれ所定の位置に配設されている。ここで、前記重量表示部６は、前記秤部４における計量重量を表示するものである。又、前記特定データ入力キー７は、前記秤部４で計量する図示しない食料品のデータを入力する複数個の材料入力キー９と、当該食料品を摂取する人のデータを入力する各々複数個の性別入力キー１０、年代入力キー１１、身長入力キー１２及び活動量入力キー１３とよりなる。そして、前記テンキー８は、０から９までの数字キー１４と、キャンセル用のＣキー１５と、風袋引き用の風キー１６と、一時キ

食料品の名称を入力する。これは、材料入力キー９で、例えば「肉」という大きな概念を指定し、数字キー１４で「肉」のカテゴリー中のどの肉なのかを指定するものである。すると、表示部１８には、

- ③ 計量する食料品及びその重量
- ④ 計量した食料品のエネルギー量及び栄養量
- ⑤ ②～④

が表示される。ここで、秤部４で入力した名称に係る食料品の計量を行なうと、その重量が重量表示部６に表示されるとともに、表示部１８における前記③～⑤の表示に当該食料品に係るデータが表示される。ここに、計量した食料品のエネルギー量及び栄養量が表示部１８に表示され、加えて、これらのデータと特定人が１日に必要とする理想値との比較も表示される。したがって、より実効ある栄養量の表示がなされ、有用性ある栄養スケール１が得られる。

次に、具体的に、牛肉と鳥肉とを計量する場合について説明する。まず、これらの食料品を摂取

する人に關し、

性 別：男

年 代：40代

身 長：170 cm

運動量：中

とすると、これらのデータを性別キー10等により入力する。すると、表示部18には第3図のような表示がなされる。ここで、材料入力キー9と数字キー14とで材料が牛肉である旨を入力し、秤部4で牛肉を計量する。これにより、重量表示部6には計量した牛肉の重量が表示される。一方、表示部18には第4図に示すような表示がなされる。

次に、鳥肉を計量するには、*キー17により牛肉の表示に係るデータを一時キャンセルする。このとき、一時キャンセルされるのは牛肉及び過不足に関するデータのみであり、又、表示部18の表示はそのまま残される。そして、材料入力キー9と数字キー14とで材料が鳥肉である旨を入力し、秤部4で鳥肉を計量する。例えば、その重

ある。

又、既に計量する食料品の重量がわかっている場合、その食料品を秤部4で計量することなく、テンキー8によつて当該重量を入力することもできる。例えば、その重量が100gの場合、風キー16を押し、数字キー14で100を指定すればよい。

発明の効果

本発明は、秤部と、各食料品の所定重量におけるエネルギー量及び栄養素量を記憶するメモリーとを設け、秤部における所定の食料品の計量重量に対するエネルギー量及び栄養素量を演算する演算回路を設け、演算されたエネルギー量及び栄養素量を表示する表示部を設けたので、各食料品の所定重量におけるエネルギー量及び栄養素量を表示してより実効ある栄養量の表示をなしうる有用性ある栄養スケールが得られる等の効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示す全体の斜視図、第2図は操作面の正面図、第3図は表示部におけ

量が200gなら、重量表示部6には“200g”と表示され、表示部18には第4図に示す牛肉の場合に準じて鳥肉に関するデータが表示される。

ここで、*キー17を押すと、鳥肉に関するデータが一時キャンセルされて、表示部18には牛肉に関するデータに鳥肉に関するデータが加算されて表示される。一方、Cキー15を押すと、各データが初期状態に戻り、この後、*キー17を押すと、計量した食料品の栄養量が理想値よりもオーバーした場合、過剰分を消費するためにどの程度の運動が必要かが具体的に表示される。この場合において、*キー17を1回押せば1回目の計量データ、すなわち牛肉に関するものが表示され、*キー17を2回押せば1回目に2回目を加算された計量データ、すなわち牛肉及び鳥肉に関するものが順次表示されてゆく。ここで、第5図に*キー17を2回押したときの表示部18の状態を示す。なお、第3図ないし第5図中、1日に必要な理想的栄養量、並びに第4図及び第5図中、各食料品のエネルギー量及び栄養素量は標準値で

る表示の一例を示す正面図、第4図はその別の一例を示す正面図、第5図はその別の一例を示す正面図である。

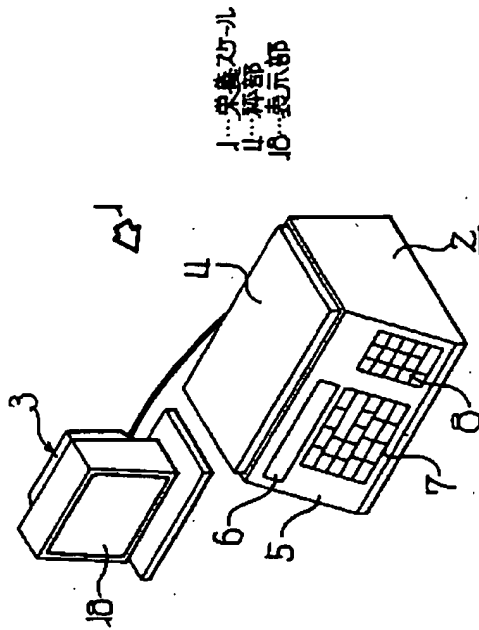
1…栄養スケール、4…秤部、18…表示部

出 願 人 東京電気株式会社

代 理 人 柏 木 明



第1図



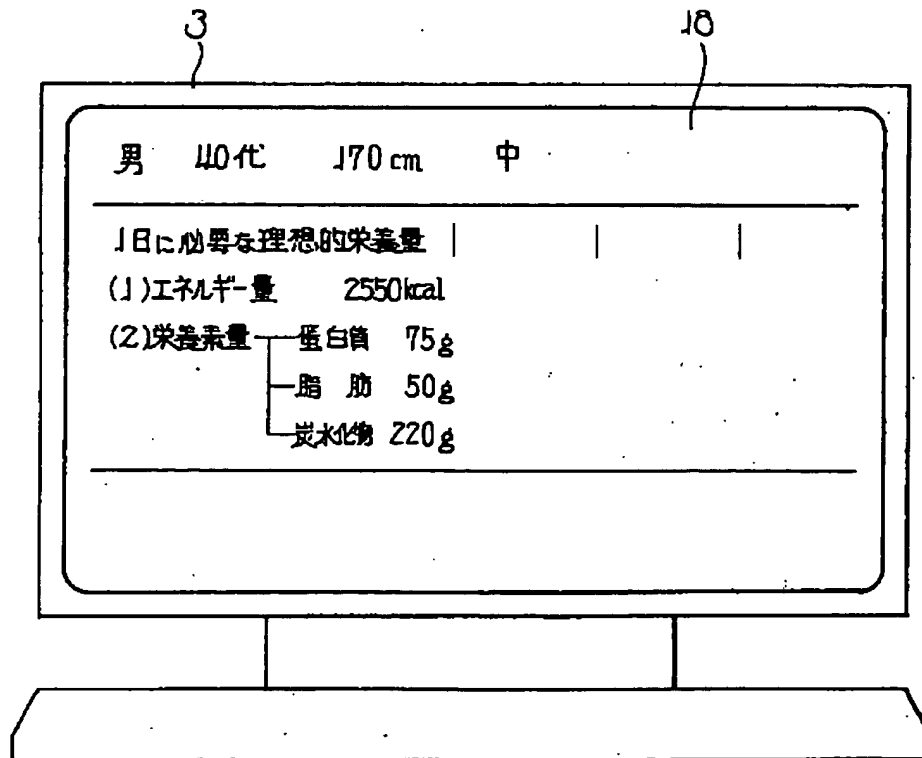
第2図

重量表示

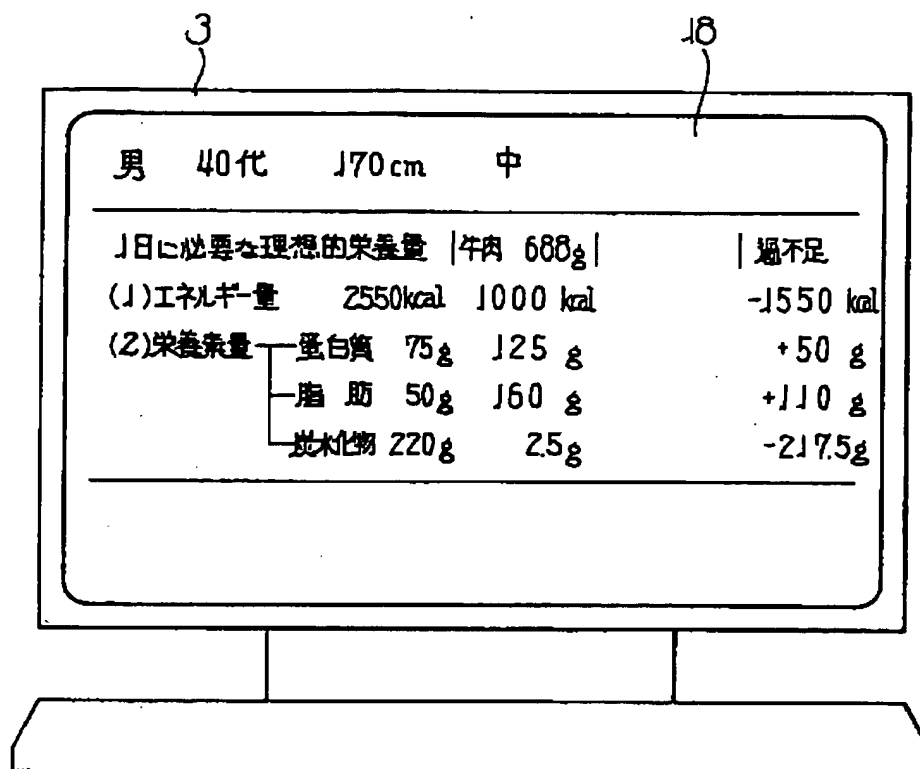
材料	肉	魚	野菜	穀類
性別	男	女		
年代	30	40	50	60
身長	150	160	170	180
活動量	軽	中	やや重	重

7	8	9	11	12	13	14	15
7	8	9	4	5	6	1	2
0	00	C	*				

第3図



第 4 図



第 5 図

